

1-11 倫理学

研究・教育活動の概要と特色

倫理学専攻分野は哲学専攻分野とともに、研究教育活動を常に共同で行っています。

一つには、東北哲学会の事務局として担当する五十有余年にわたる活動を継続し、平成 22 年度および平成 24 年度も東北地方を中心とする諸大学の研究者の研究発表大会（それぞれ第 60 回、第 62 回）を本学において開催し、年報（それぞれ第 27 号、第 29 号）を刊行しました（毎年度同様に開催・刊行しています）。また、大正期からの長い伝統である現象学研究をいまに引き継ぎ、毎年五月にはフッセル・アーベントを開催しています。

大学院生に対する教育活動としては、まず各院生の専攻研究と論文執筆を向上進展させるべく、研究発表会での討論と機関紙『思索』（2014 年度は第 47 号）への発表を指導しています。また、今日の社会と学界における応用倫理学の動向に応えるために、機関紙『Moralia』（2014 年度は第 20 号）を場として、生命・医療・環境・技術などに関する研究と論文発表を促進してきました。またこの『Moralia』に関しては、今年度は倫理学専攻分野が出版費用を受け持つ形で、広く大学内外に影響力のある執筆者を募って刊行する予定です。

さらに平成 21 年度から、他大学（弘前大学、盛岡大学等）の研究者を共同研究者として、あらたなプロジェクト「対話の垂直性について—ハイパーダイアログの包括的理解—」（代表研究者：倫理学専攻分野教授・戸島貴代志）を立ち上げ、すでに本学他専攻分野（心理学）との共同開催で、2 回の研究集会を行いました。また、この研究の発展として、平成 24 年度から 3 年間の計画で、「対話の時間性—「機」の諸相—」（代表研究者：倫理学専攻分野教授・戸島貴代志）がスタートしました。

また、2008 年度から 2009 年度にかけて市民参加型講義「日曜大学」がほぼ月に一度のペースで行われ、「みやぎ県民大学」やホームページでの発信と相俟って、倫理学専攻分野による社会貢献の一つとなっています。

I 組織

1 教員数（2015 年 5 月 20 日現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：戸島貴代志

准教授：村山達也

2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
38	0	3	6	0

3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	12	4	0
11	7	2	1
12	1	0	0
13	7	0	0
14	7	1	1
計	34	7	2

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	1	0	0
計	1	0	0

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

池田準、2014年度、『カント哲学における自由の演繹——自由の実践的实在性と理性的自己意識の構造——』、審査委員：教授・戸島貴代志（主査）、教授・座小田豊、准教授・村山達也

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	1	0	0	0	1
11	0	0	0	1	1
12	1	1	1	0	3
13	2	0	0	0	2
14	1	0	0	0	1
15	1	0	0	0	1
計	6	1	1	1	9

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	0	1	1	0	2
11	2	2	1	0	5
12	2	1	3	0	6
13	0	2	2	0	4
14	0	3	2	0	5
15	0	2	0	0	2
計	4	11	9	0	24

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

池田準「第5講カント」、伊藤周史・齋藤直樹・菅原潤編『21世紀の哲学史—明日をひらく知のメッセージ』、pp.64-80、昭和堂、2011年。

池田準「ライブニッツとカントにおける自由と必然性」、東北文学会『文化』75巻3/4号、2012年。

池田準「『構想力の論理』と三木清の実践哲学」、吉川孝 他編『生きることに責任はあるのか—現象学的倫理学の試み』、弘前大学出版会、2012年、所収。

小原拓磨「他者理解と自己内関係——メルロ＝ポンティにおける他者とまなざしの弁証法——」、『東北哲学会年報』第26号、2010年。

小原拓磨「時間から人倫へ——前期デリダにおける脱構築の行方」、『現象学年報』第29号、2013年。

小原拓磨「時間に取り憑いた死——デリダ思想における「私」の構成の問題」、
『現象学年報』第31号、2015年。

田村康貴「仮構と想像——ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の仮構機能をめぐ
って——」、『東北哲学会年報』第28号、2012年。

田村康貴「ベルクソン『二源泉』における責務の問題」、『思索』第46号、
2013年。

平間満里花「個性と歴史性——ディルタイ中・後期の思索を手掛かりに」、『東
北哲学会年報』第30号、2014年。

(2) 口頭発表

小原拓磨「キアスム的他者関係——メルロ＝ポンティ後期思想からみる他者性——
」、日本現象学会、2010年11月

小原拓磨「時間から倫理へ——前期デリダにおける脱構築の行方」、日本現象学
会、2012年11月。

小原拓磨「差延、二つの経済、無意味性の世界」、東北哲学会、2013年10月。

小原拓磨「時間に取り憑いた死——デリダ思想における「私」の構成の問題」、
日本現象学会、2014年11月。

赤塚弘之「1930年代のハイデガー哲学における歴史の問題について」、東北哲
学会、2014年10月。

赤塚弘之「媒体としての人間について——ハイデガーの『哲学への寄与』におけ
る人間についての問い」、応用哲学会、2015年4月。

二階堂慧「メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』における身体了解の働き」、東北
大学哲学研究会、2010年6月。

二階堂慧「他者との隔たりと共存——メルロ＝ポンティにおける他者との共同性
——」、東北哲学会、2011年10月。

田村康貴「ベルクソンにおける笑いと想像力」、東北大学哲学研究会、2011年6
月。

田村康貴「想像と宗教——ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の仮構機能をめぐ
って——」、東北哲学会、2011年10月。

Koki Tamura, "On the Myth-Making Function in Bergson", The 4th GCOE International
Symposium, February, 2012.

田村康貴「他なるものの権威——ベルクソン『二源泉』における責務と錯覚」、
東北大学哲学研究会、2013年6月。

田村康貴「良識と共犯——ベルクソン『笑い』の共同体論の限界」、実存思想協会、2014年6月。

田村康貴「「われわれ」は何をしているのか——『笑い』の自我論」、北日本哲学研究会、2015年1月。

Marika Hirama, "The concept of objectification in life philosophy and natural science", The 4th GCOE International Symposium, February, 2012.

平間満里花「表現することと自己であること——ハイデガーにおけるディルタイの批判的継承をめぐって」、東北大学哲学研究会、2012年6月。

Marika Hirama, "Individuality and historicity of life-from Dilthey's middle and late speculation," The 5th GCOE International Symposium, March, 2013.

平間満里花「個性と歴史性——ディルタイ中・後期の思索を手掛かりに」、東北哲学会、2013年10月。

栗山勝行「秩序と時間——ベルクソンの創造論」、東北大学哲学研究会、2012年6月。

栗山勝行「ベルクソンとカント——有機体と機械との差異化をめぐって——」、北日本哲学研究会、2013年1月。

Katsuyuki Kuriyama, "Comparative studies of the concept of organism between Bergson and Kant," The 5th GCOE International Symposium, March, 2013

栗山勝行「カントとベルクソン——有機体の産出様式をめぐって」、東北大学哲学研究会、2013年5月。

白井裕希「シンガーとダイヤモンドの動物倫理の議論は噛み合っているか」、北日本哲学研究会、2015年1月。

白井裕希「動物倫理における感情分析」、応用哲学会、2015年4月。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2011年度 DC採用1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2 (2014年度)

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	1	0	1
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
15	1	0	0
計	3	0	2

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

2011年度 米原優 静岡大学教育学部
2013年度 大森史博 岩手大学教育学部

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中学教員 1名
高校教員 7名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『東北哲学会年報』1985年より毎年刊行

『思索』1968年より毎年刊行

『モラリア』1994年より毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度	東北哲学会事務局 東北哲学会第60回大会（2010年10月23,24日）
2011年度	東北哲学会事務局
2012年度	東北哲学会事務局 ハイデガー・フォーラム第7回大会（2012年9月15日） 東北哲学会第62回大会（2012年10月20,21日） 日本現象学会第34回研究大会（2012年11月17,18日）
2013年度	東北哲学会事務局
2014年度	東北哲学会事務局 実存思想協会第30回大会（2014年6月21日） 東北哲学会第64回大会（2014年10月25,26日）
2015年度	東北哲学会事務局 応用哲学会第七回年次研究大会（2015年4月25,26日） 科学技術社会論学会年次研究大会（2015年11月21,22日）

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010年度～2015年度 東北大学哲学研究会

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

倫理学専攻分野は、これまではどちらかというと、個別倫理の実際的な探求よりは、およそ倫理というものが成立しうる人間存在そのものの原理的な探求が中心であった。ドイツ・フランスの現象学を中心とした研究体制も、そうした方向と軌を一にするものとして維持されてきた。しかしながら、昨今の個別・実際的な応用倫理の問題状況にかんがみて、今後は、よりアクチュアルな問題に対する研究体制の拡充も図られるべきであろう。学生の問題意識も、現実社会における個別の問題を視野に入れたものに

なっている。

組織としての教育活動について

基本的には上の研究活動と理念を共にするが、もともと少人数である本専攻分野では、いわゆる世間の要求に即座に応える明敏な人材の育成というよりは、先に「人間存在そのものの原理的研究」と述べたように、社会の目立たぬ場所で人知れず世を支える骨太の人間の育成に励んできた経緯がある。この方向に沿って、研究成果をより広く市民一般にも開放する意図を持って、平成 19 年度は、倫理学専攻分野において全 5 回の「みやぎ県民大学」が開かれた。またこれを受ける形で、平成 20 年度および 21 年度には、「日曜大学」として、3 週間に一度の定期公開講義を一般市民に提供している。

Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015 年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

戸島貴代志「ナレナイこと・ナラナイこと」、『創文』2010 年 3 月号、pp.1-5、
創文社、2010

戸島貴代志「死への産声」、『生と死への問い』、東北大学出版会、pp.179-215

戸島貴代志「活撥発地」、『モラリア』第 18 号、東北大学倫理学研究会、2011

戸島貴代志「或る死の記録—沈黙の記述—」、『柳田國男と東北大学』、

東北文化研究室公開講演会資料集、52 頁—57 頁、2011 年 11 月

戸島貴代志「活撥発地」（発表予稿）『第三回日中哲学フォーラム』、

慶応義塾大学人文グローバル COE, 341—349、2011 年 12 月

戸島貴代志「己の而今」、『今を生きる 1 人間として』

東北大学出版会、137 頁—156 頁、2012 年 3 月

戸島貴代志「続・活撥発地」、『モラリア』第 18 号、東北大学倫理学研究会、

2012 年 10 月

戸島貴代志「哲学入門—何のために生きるのか—」『New Wave』vol. 38 No. 441、

全日本電設資材卸業協同組合連合会、9 頁—26 頁、2013 年 7 月

戸島貴代志「言葉の身体」、『モラリア』第 20 号、東北大学倫理学研究会、

2013 年 10 月

戸島貴代志「ふるさとの音」、『地域再考 —復興の可能性を求めて』、東北大

学出版会、2014 年 3 月

戸島貴代志「新しき古さ」、『日本顔学会誌』14号、日本顔学会、21頁-24頁
2014年10月

Tatsuya MURAYAMA, « Portrait de famille? – Bergson et le dernier Wittgenstein », in F. Worms (éd.), *Annales bergsoniennes V*, PUF, pp. 379-400, 2012.

村山達也「儂さと空しさと満たされなさと」、『東北哲学会年報』第28号、東北哲学会、pp. 1-13, 2012.

村山達也「シシュフォスの寓話」、『三田評論』1159号、慶應義塾、p. 47、2012.

Tatsuya MURAYAMA, « L'émotion comme connaissance ? — La preuve bergsonienne de l'existence de Dieu », 『思索』第46号、東北大学哲学研究会、2013年10月

村山達也「信仰への二つのたくらみ」、『文化理解のキーワード』、東北大学出版会、2015年3月。

大森史博「生の標高を描きなおす——「倫理」への批判」、篠澤和久・馬淵浩二（編）『倫理学の地図』、ナカニシヤ出版、2010、所収（pp. 175-206）

大森史博「間ロゴスと応答可能性—メルロ=ポンティ現象学による倫理学序説」、吉川孝 他（編）『生きることに責任はあるのか—現象学的倫理学の試み』、弘前大学出版会、2012、所収（pp. 83~110）

1-2 著書・編著

なし

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

（書評）

戸島貴代志「渡邊二郎著『渡邊二郎著作集』筑摩書房」、『週間読書人』、2011年1月号

戸島貴代志「アンリ・ベルクソン著、合田正人監修『ベルクソン書簡集 I』法政大学出版局」、『週間読書人』、2012年

戸島貴代志「森一郎著『死を超えるもの』、東京大学出版会」、『週刊読書人』、2013年

（翻訳）

大森史博「心が存在するということ」、ジェナン・イスマエル著、東北大学哲学研究会編『思索』第44号、2011年

村山達也「安全のための三つのツール」、スヴェン・ウヴェ・ハンソン著、東北大学倫理学研究会編『モラリア』第20号・第21号合併号、2014年。

1-4 口頭発表

戸島貴代志 「或る死の記録」（シンポジウム）柳田國男五〇年祭記念シンポジウム、東北大学/仙台市、2011年11月19日

戸島貴代志 「新しき古さ—FACE IS WHAT IS FACED」顔学会、シンポジウム「機と機縁」、東北大学萩ホール、2013年11月10日

戸島貴代志 「森一郎『死を超えるもの』書評会」（質問者）
ハイデガー研究会主催、東京大学駒場、2014年2月8日

村山達也「空しさと儂さとその無意味さと」、東北哲学会、弘前大学、2011年10月

Tatsuya MURAYAMA, « L'émotion comme connaissance ? — La preuve bergsonienne de l'existence de Dieu », ベルクソン国際シンポジウム、京都大学、2012年10月

村山達也「実感についての二つの実感」、大西克智『意志と自由』合評会（特定質問者）、東京大学本郷キャンパス、2014年10月31日。

2 教員の受賞歴（2010～2015年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

（1）科学研究費補助金

平成21年度～23年度 課題番号21520002 基盤研究(C)（一般）研究代表者
戸島貴代志「対話の垂直性—ハイパーダイアログの包括的理解—」
4,640,000円（3年間総額）

平成23年度～25年度 課題番号23720002 若手研究(B) 研究代表者 村山達也
「ベルクソンを中心とした、1900年前後のフランスにおける「笑い」の哲学の研究」2,600,000円（3年間総額）

平成24年度～26年度 課題番号21520004 基盤研究(C)（一般）研究代表者
戸島貴代志「対話の時間性—「機」の諸相—」4,940,000円（3年間総額）

平成24年度～26年度 課題番号24320001 基盤研究(B) 研究分担者 戸島貴

代志、村山達也「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想史的・応用倫理学的研究」13,600,000円（3年間総額）

平成25年度～27年度 課題番号 25370002 基盤研究（C） 研究分担者 村山達也「19世紀末～第二次世界大戦期のフランス倫理学の展開とその現代的可能性」3,700,000円（3年間総額）

平成26年度～28年度 課題番号 26770002 若手研究（B） 研究代表者 村山達也「19世紀後半のフランスにおける自由論と自我論——その交錯と展開」2,400,000円（3年間総額）

（2） 東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム

なし

（3） 財団法人「風樹会」研究奨励金

平成18年度～22年度 研究代表者 齋藤直樹「ニーチェおよびアドルノにおける美的倫理の研究」2,800,000円（5年間総額）

V 教員による社会貢献（2010～2015年度）

戸島貴代志 「日曜大学」東北大学にて3週間に一度の定期公開講座、2008年4月より2010年2月まで

戸島貴代志 「まことの花—身体の時間と心の時間」 「みやぎ県民大学」東北大学、2009年9月15日

戸島貴代志 「ひっかかりをもつこと」、仙台第一高等学校文化祭講演、仙台第一高等学校、2011年8月27日

戸島貴代志 「ナレナイ・ナラナイ」、平成23年度SAカレッジ講座、東北大学加齢医学研究所、2011年9月23日

戸島貴代志 「一条の光」東北大学文学研究科 市民のための公開講座

「第5期 齊理蔵の講座」、伊具郡丸森町 齊理屋敷、2012年10月6日

戸島貴代志 「逝く、ということ」、平成24年度SAカレッジ講座、東北大学加齢医学研究所、2012年10月26日

戸島貴代志 「ナレナイこと」スマート・エイジング講座、東北大学

2012年10月11日

戸島貴代志 「ナレナイこと」スマート・エイジング講座、東北大学

2013年10月 日

戸島貴代志 国際シンポジウム「安全と安心のあいだ」(司会)

主催：東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

共催：東北大学文学研究科、東北大学川内萩ホール、2014年2月

戸島貴代志 「まことの花 ―開かずの扉―」仙台明治青年大学主催、仙台市

太白区文化センター、2014年4月23日

戸島貴代志 「地域再考についての座談会」、東北大学出版会主催、東北大学

2014年7月17日

戸島貴代志 「思考の基礎体力をつける」、学校法人宮城学院 若手職員研修

2014年7月24日

村山達也「死の害悪について」岩手県立福岡高等学校での出張講義、2010年10月20日。

村山達也「超越と救済」有備館講座、大崎市岩出山文化会館、2014年9月20日。

VI 教員による学会役員等の引き受け状況(2010～2015年度)

戸島貴代志 実存思想協会理事(2008年度～)

戸島貴代志 東北哲学会委員(2008年度～)

戸島貴代志 日本倫理学会年報編集委員・和辻賞選考委員(2009年度～)

村山達也 東北哲学会委員(2010年度～)

大森史博 東北哲学会幹事(2009年度～)

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当(2015年度)

1 大学院授業担当

戸島貴代志 倫理学研究演習Ⅲ、Ⅳ

倫理学特論Ⅲ

課題研究

村山達也 倫理学研究演習Ⅴ、Ⅵ

倫理学特論Ⅰ

課題研究

2 学部授業担当

戸島貴代志 倫理思想基礎講読

倫理思想演習
倫理思想各論
倫理思想概論
村山達也 倫理思想基礎講読
倫理思想演習
倫理思想概論
倫理思想各論

3 その他

共通科目・全学科目授業担当

村山達也 英語原書講読入門
人文社会序論

(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

村山達也 国士舘大学 (フランス哲学) (2007～2010 年度前期)
村山達也 慶應義塾大学 (倫理学) (2007～2010 年度前期)
大森史博 東北文化学園大学 (環境倫理) (2009 年度～2011 年度)
大森史博 仙台白百合女子大学 (生命倫理学) (2010 年度～2011 年度)

池田準 仙台白百合女子大学 (生命倫理学) (2012 年度～)
小原拓磨 東北学院大学 (フランス語) (2011 年度前期)
小原拓磨 トゥールーズ第二大学 (日本語学) (2011 年 9 月～2013 年 8 月)
小原拓磨 東北学院大学 (フランス語) (2013 年度～)
栗山勝行 トゥールーズ第二大学 (日本語学) (2013 年 9 月～)